

- ・本資料は、当社の経営方針等に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。
- ・本資料で使用するデータおよび表現等の欠落・誤謬等につきましてはその責を負いかねますのでご了承ください。
- ・本資料に記載された意見や予測等は資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し又は約束するものではなく、また今後、予告なしに変更されることがあります。

証券コード：8609

株式会社 岡三証券グループ

2025年3月期

決算・経営戦略説明会

2025年 5月 16日

目次



01 2025年3月期決算概況

02 グループ概要、トピックス等

03 成長戦略

04 経営指標目標、株主還元等

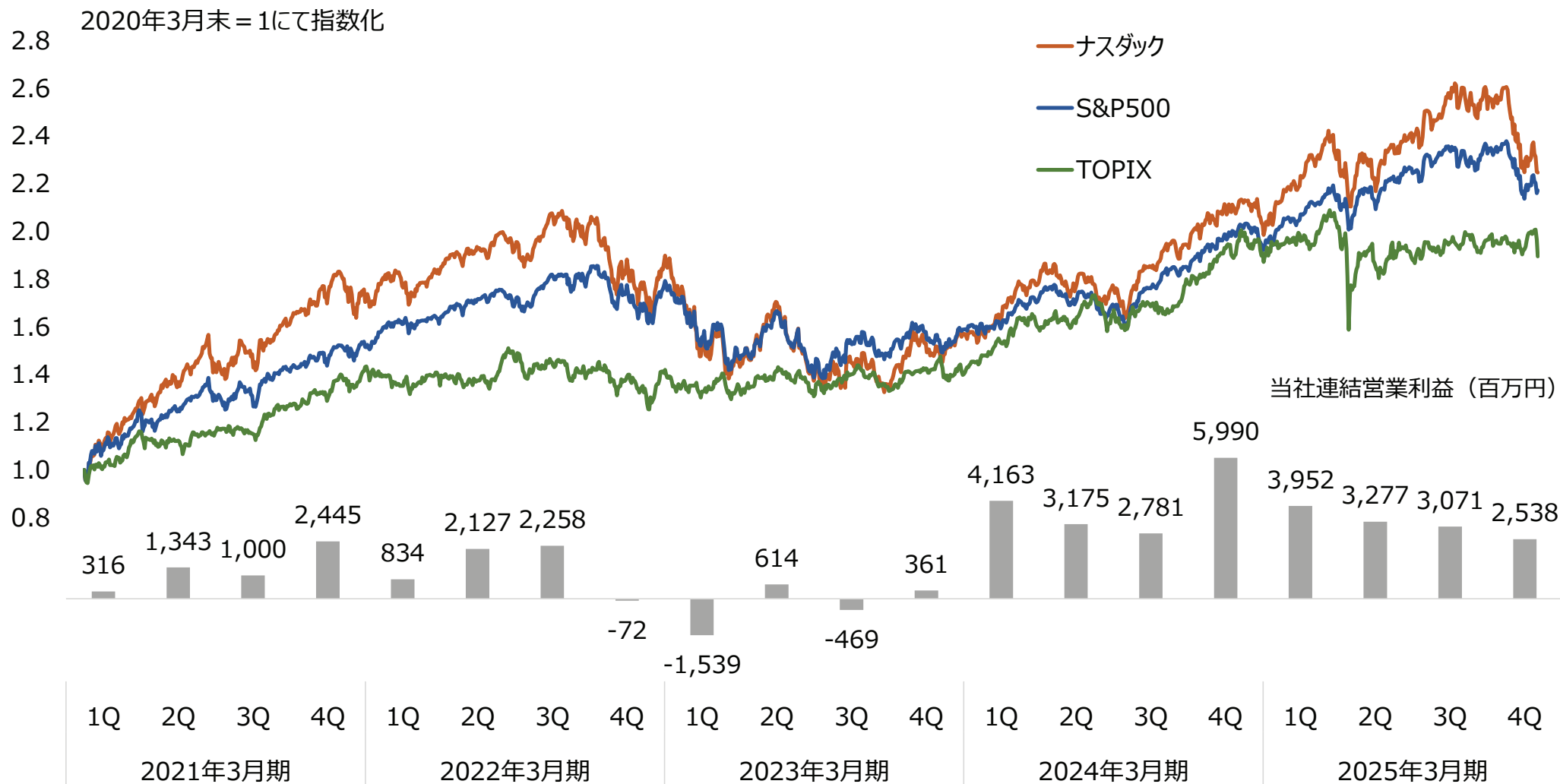
01

2025年3月期決算概況

2025年3月期の総括

- ✓ 日経平均株価は値動きの荒い場面もあったが、個人のお客さまによる外国株式の売買は活況となった。
- ✓ お客さまの評価益が高水準で推移する中、ストック型収益は拡大。
- ✓ 岡三証券を軸とする証券プラットフォーム事業を開始。
- ✓ 岡三BANKや岡三UBSファンドラップも進捗し、資金導入については流入超過が継続。

日米株価指数と当社連結営業利益の推移



決算ハイライト

(単位：百万円)

	2024/3期	2025/3期	増減率
営業収益	84,509	81,936	▲3.0%
純営業収益	82,553	79,849	▲3.3%
販売費・一般管理費	66,442	67,010	0.9%
営業利益	16,111	12,838	▲20.3%
経常利益	18,061	15,577	▲13.8%
親会社株主に帰属する当期純利益	13,167	11,652	▲11.5%

決算のポイント

✓ 営業収益は前期比3.0%減

アベノミクス以来の高水準だった前期から減少。
トレーディング損益が減少した一方、
安定収益であるその他の受入手数料（信託報酬等）は拡大。

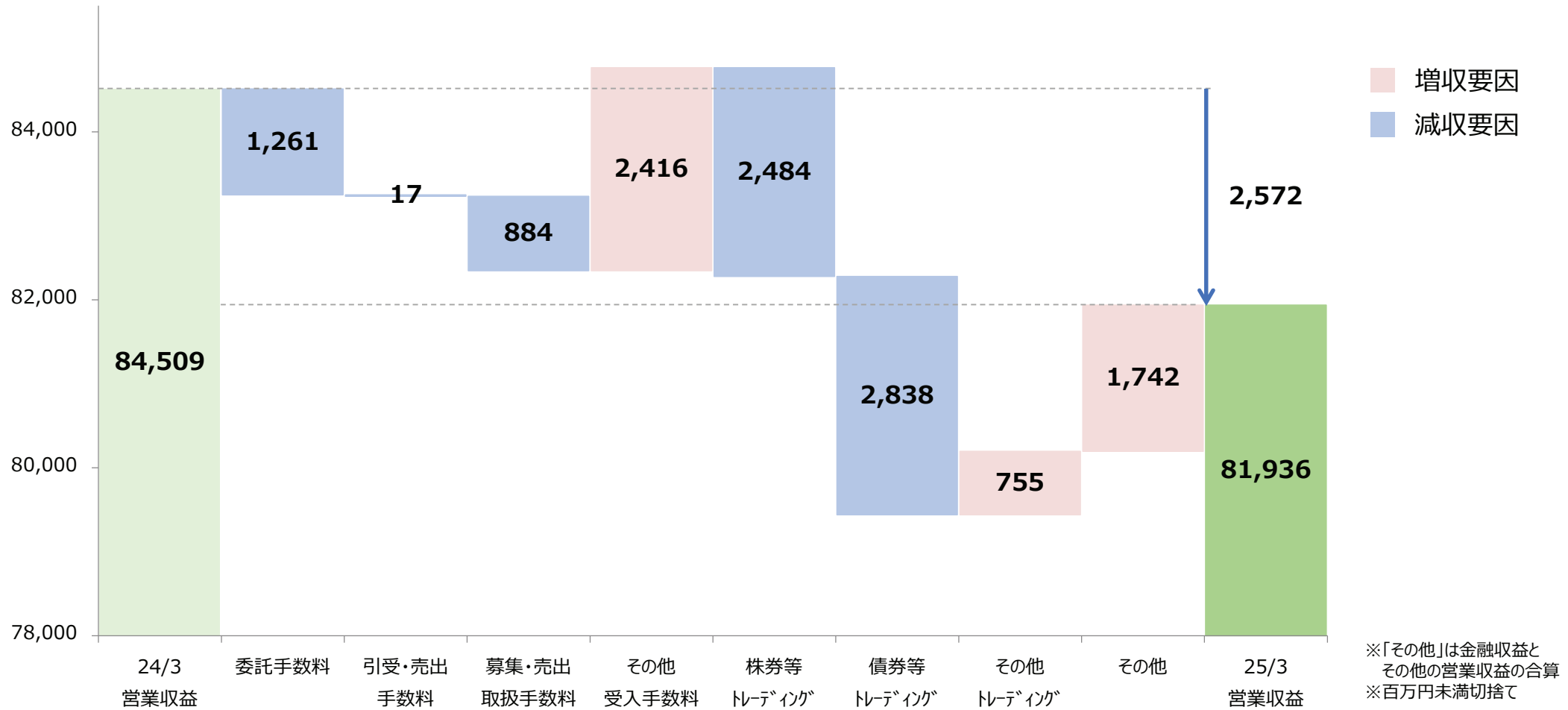
✓ 経常利益は同13.8%減

人件費や不動産関係費等の増加により販管費は同0.9%増。

✓ 親会社株主に帰属する当期純利益は同11.5%減

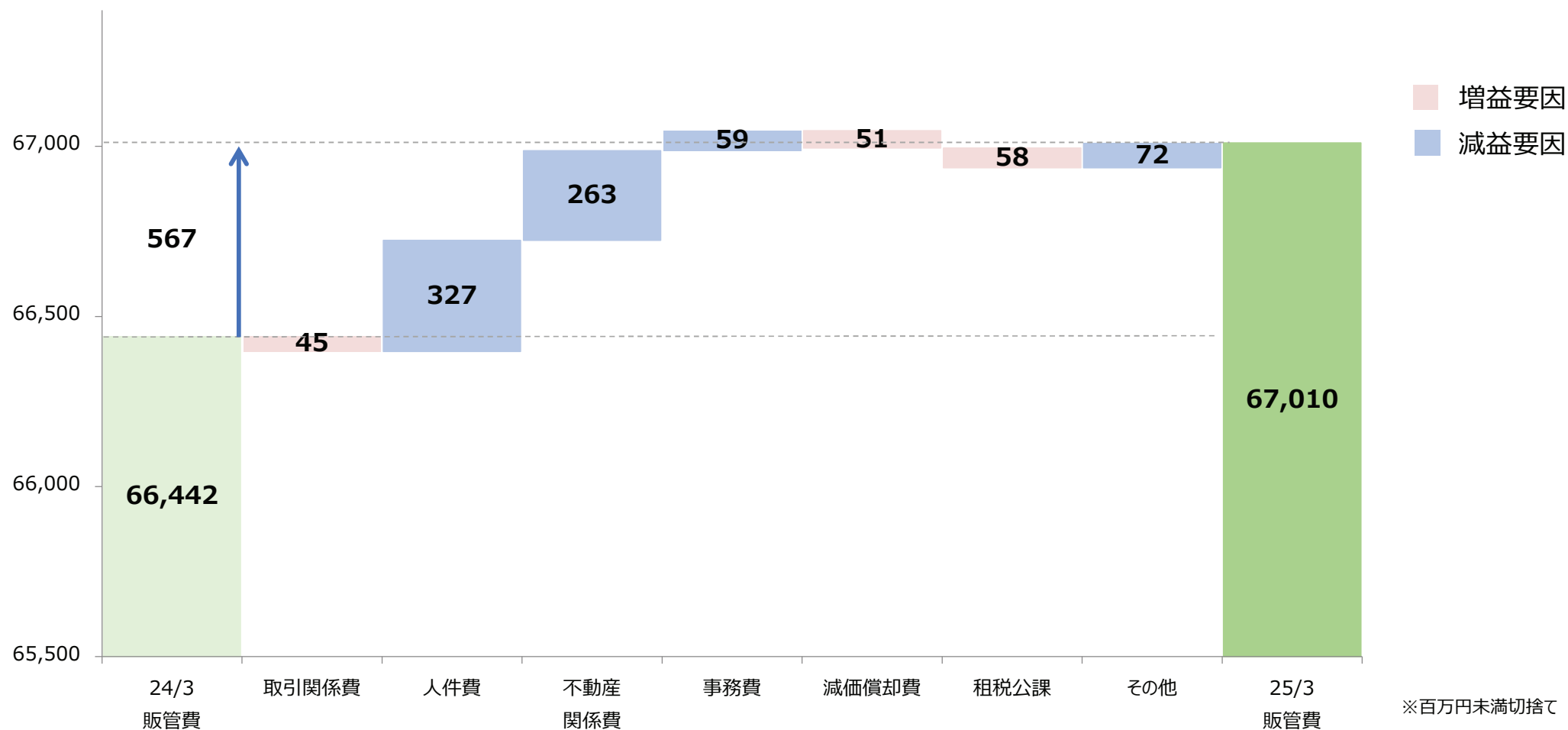
営業収益の変動要因（前期比）

(百万円)



販売費・一般管理費の変動要因（前期比）

(百万円)



四半期業績推移

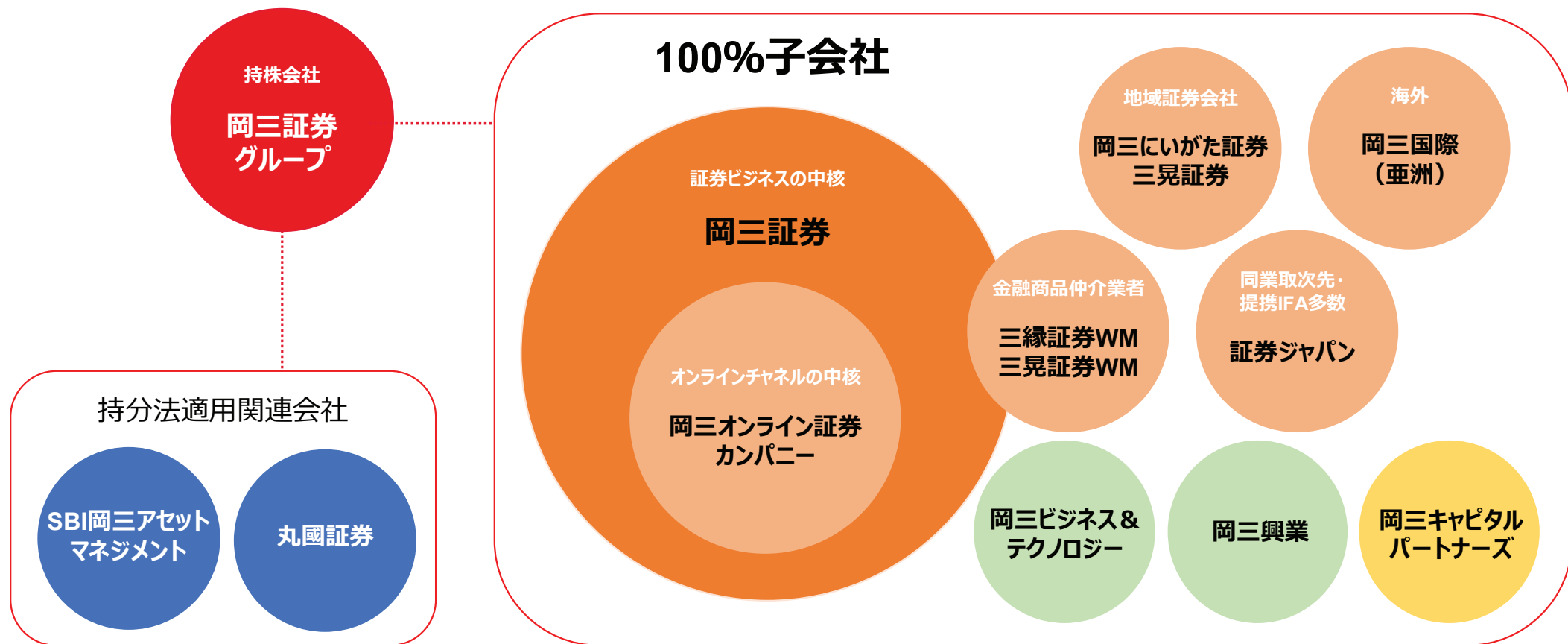
(単位：百万円)

	24/3期					25/3期				
	1Q	2Q	3Q	4Q	累計	1Q	2Q	3Q	4Q	累計
営 業 収 益	21,247	19,959	19,639	23,663	84,509	21,117	20,384	20,723	19,712	81,936
受入手数料	12,363	12,754	11,021	13,809	49,948	12,976	12,686	12,592	11,946	50,201
委託手数料	6,053	5,417	4,825	7,877	24,173	6,392	5,383	5,687	5,448	22,911
引受け・売出し等の手数料	560	289	169	440	1,459	409	336	541	154	1,442
募集・売出し等の取扱手数料	3,491	4,603	3,510	2,813	14,419	3,224	3,949	3,259	3,101	13,534
その他の受入手数料	2,258	2,444	2,516	2,677	9,896	2,950	3,016	3,104	3,242	12,313
トレーディング損益	7,711	5,902	7,287	8,239	29,139	6,790	6,124	6,133	5,523	24,572
株券等	5,674	4,838	5,922	6,372	22,808	5,395	4,794	5,549	4,584	20,323
債券等	2,001	1,404	1,086	2,003	6,496	1,500	695	885	576	3,658
その他	34	-340	278	-136	-164	-106	635	-301	363	590
金融収益	794	878	887	1,027	3,588	928	1,161	1,393	1,819	5,303
その他の営業収益	378	423	442	587	1,832	422	412	602	422	1,859
金融費用	480	497	507	469	1,955	476	410	489	710	2,087
純 営 業 収 益	20,766	19,461	19,131	23,193	82,553	20,640	19,973	20,233	19,002	79,849
販 売 費 ・ 一 般 管 理 費	16,603	16,285	16,349	17,203	66,442	16,688	16,696	17,162	16,463	67,010
取引関係費	2,654	2,572	2,734	2,758	10,720	2,606	2,534	2,747	2,787	10,675
人件費	8,240	8,322	8,222	8,431	33,216	8,319	8,504	8,504	8,215	33,543
不動産関係費	1,948	1,916	1,901	1,886	7,652	2,160	1,914	1,932	1,908	7,915
事務費	2,210	2,085	2,113	2,517	8,926	2,154	2,231	2,531	2,067	8,985
減価償却費	786	792	801	842	3,222	731	821	786	832	3,171
租税公課	375	319	275	387	1,357	381	319	320	277	1,299
その他	388	276	300	380	1,347	333	371	339	374	1,419
営 業 利 益	4,163	3,175	2,781	5,990	16,111	3,952	3,277	3,071	2,538	12,838
営業外収益	430	814	132	1,089	2,466	446	1,194	209	1,244	3,094
営業外費用	20	41	50	402	515	65	79	41	168	355
経 常 利 益	4,573	3,947	2,863	6,676	18,061	4,333	4,391	3,238	3,614	15,577
特別利益	1,711	0	40	522	2,275	1,291	134	778	115	2,320
特別損失	49	61	294	1,732	2,138	225	11	38	732	1,008
税金等調整前四半期純利益	6,235	3,887	2,608	5,467	18,199	5,399	4,513	3,978	2,997	16,889
親会社株主に帰属する四半期純利益	5,201	2,794	1,785	3,385	13,167	3,309	3,369	2,832	2,141	11,652

02

グループ概要、トピックス等

グループ概要



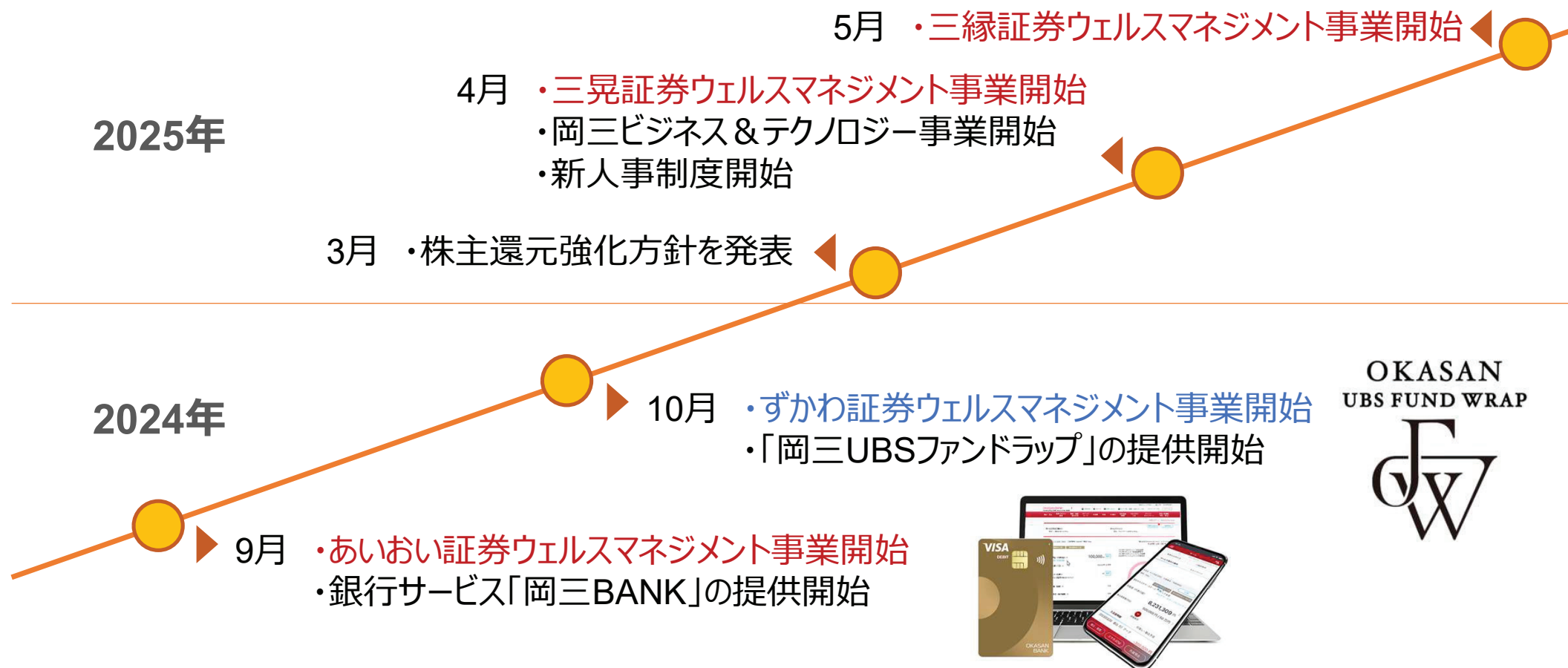
預り資産
8.2兆円

口座数
108万口座

アライアンス体制
100社

(2025年3月末時点)

直近の主なトピックス（岡三証券を軸とする証券プラットフォーム事業の開始）



新たな経営指標目標（中期経営計画）

- ✓ 「ビジネスパートナー」に関する経営指標目標を2025年3月に変更
- ✓ 主なプラットフォーム利用会社の想定を証券会社を母体とする金融商品仲介業者に変更

ステークホルダー	項 目	2028年3月期 達成目標	2023年3月末	→ 2024年9月末
ビジネス パートナー	プラットフォーム利用会社数 (うち契約IFA法人数、システム利用会社数)	130 社 (100社,30社)	53 社 (40社,13社)	→ 58 社 (47社,11社)



新たな経営指標目標

ステークホルダー	項 目	2028年3月期 達成目標	2023年3月末	→ 2025年3月末
ビジネス パートナー	岡三プラットフォーム (証券Plus+) 利用会社数*	15 社	4 社	→ 7 社

※「証券Plus+」は当社グループが提供する証券プラットフォームの呼称

岡三証券グループ 中期経営計画 ▶ <https://www.okasan.jp/group/plan.html>

03

成長戦略（1） 「One to Oneマーケティングの強化」

「コア資産」の取り込みによる「ストック型」収益の拡大（※中期経営計画より再掲）

「One to One マーケティング」の推進により、お客さまの資産全体を捉えた
トータルコンサルティングを行うことで、「コア資産」を含む預り資産残高を拡大させるとともに、
預り資産残高に連動して手数料を受け取る「ストック型」収益の増大を図る

資産全体を捉えた トータルコンサルティング

- 商品の単体売りではなく、
相続・事業承継対応などを含む
資産全体のトータルコンサルティングを実施
- 多様なお客さまのニーズに的確に
お応えする**商品ラインナップ・
ソリューションメニューを拡充**
- 高付加価値のコンサルティングを
サポートする**デジタルツールを導入**

「コア資産」の取り込み

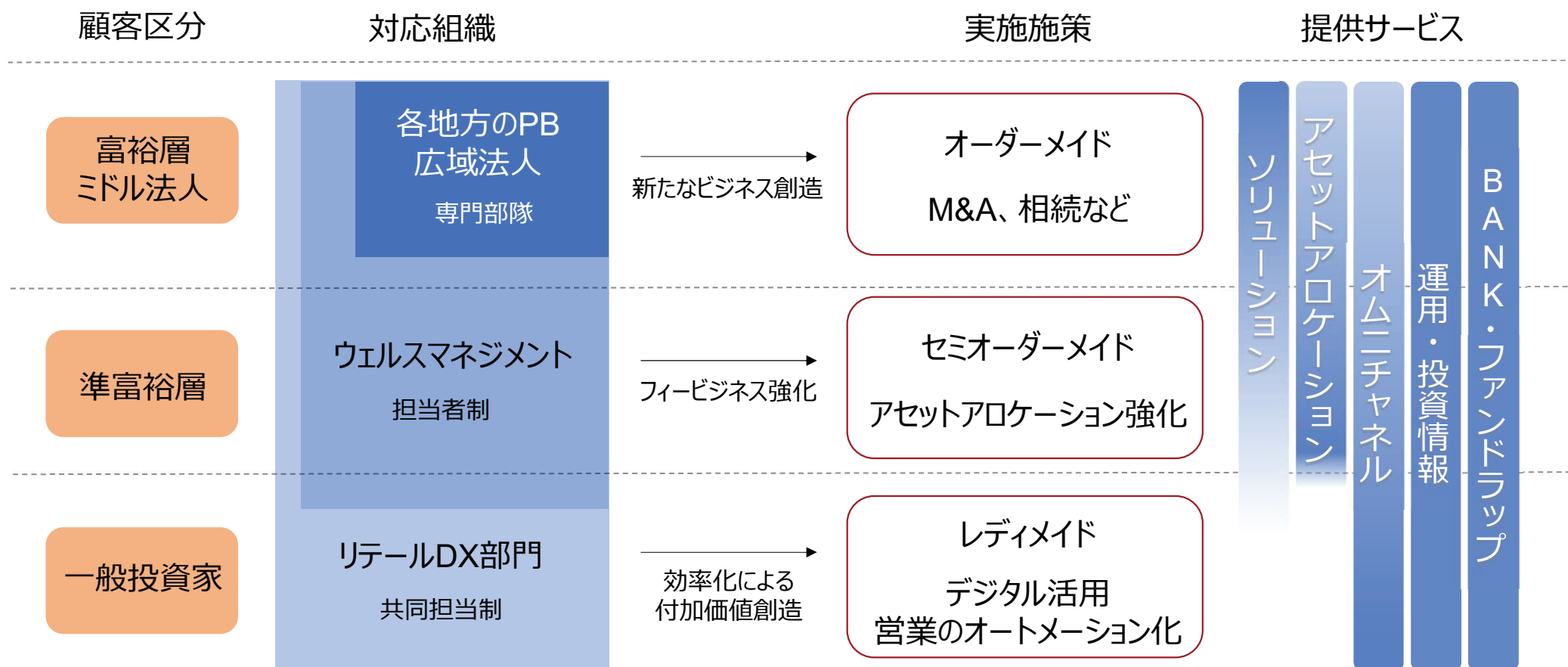
- 資産全体を捉えた
トータルコンサルティングを行うことで、
お客さまにとって**メインの金融機関**
となり、「コア資産」を含む預り資産
残高の拡大を図る
結果、**お客さま一人ひとりにおける
ウォレットシェアが拡大**
- ライフステージに応じた多様な
サービス提供により、**親・子・孫など
世代をつなぐ取引関係を構築**

「ストック型」収益の拡大

- 従来の「サテライト資産」を主とする
「フロー型」収益に加え、預り資産
残高に連動して手数料を受け取る
「ストック型」収益を拡大
- 「コア資産」向けの**商品の拡充や、
手数料体系の多様化の検討など
を推進**

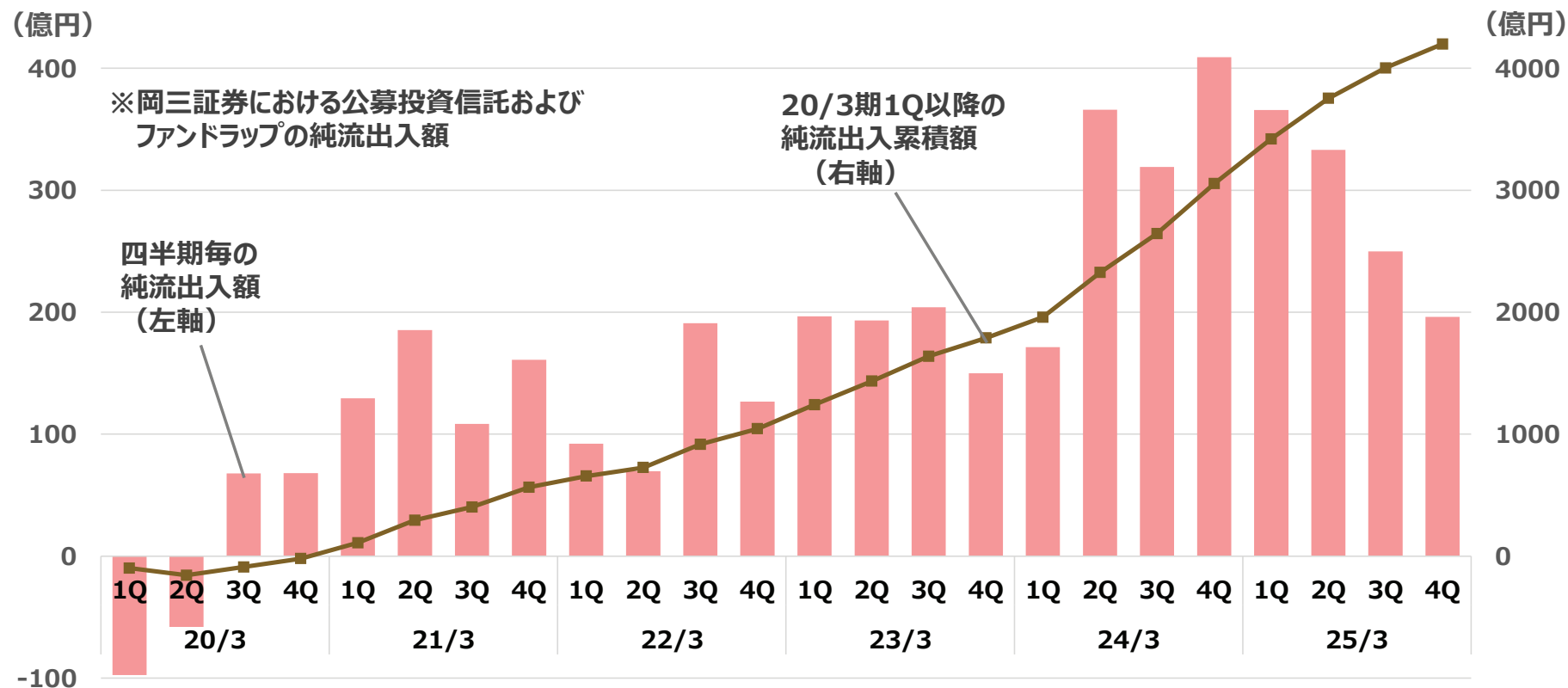
お客さまごとに対応組織が適切な施策を実施

リテール戦略マップ



投信純流出入額の実績

投信純流出入額の推移



営業戦略の
変遷・進化

お客さま本位の
営業の徹底

お客さまニーズに合わせた営業体制の再構築
(CX戦略、店舗戦略、カンパニー制等)

One to Oneマーケティングの強化
(トータルコンサルティング)

営業戦略は更なる進化へ

- ✓ リテールカンパニー統括部門とプロダクト・ソリューション開発推進部門の一体運営で営業戦略を強化
- ✓ 各証券カンパニーの「分権化」を一段と進め、現場の機動力を高める

リテールカンパニー 統括部門

(旧 マーケティング統括部門)

【主な役割】

経営指導・支援（収支・プロセス管理）

プロダクト・ソリューション 開発推進部門

(旧プロダクト・ソリューション部門)

【主な役割】

顧客ニーズに基づくPSの開発・推進

連携支援

岡三にしにほん
証券カンパニー

岡三かんさい
証券カンパニー

岡三みえ
証券カンパニー

岡三とうかい
証券カンパニー

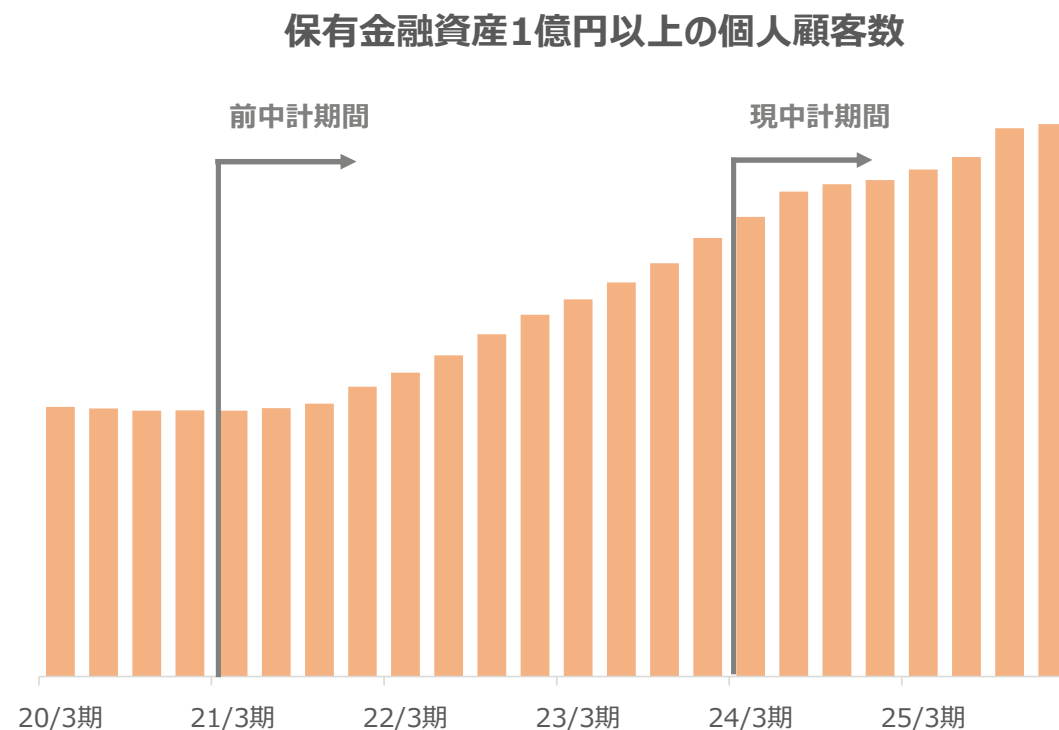
岡三とうきょう
証券カンパニー

「分権化」をより一層推進

富裕層ビジネスを強化

4つの証券カンパニーにプライベートバンキング部を移設・新設し、 富裕層向けサービスを一段と充実させる

- ① 岡三とうきょう証券カンパニー
└ プライベートバンキング部を移設
- ② 岡三とうかい証券カンパニー
└ とうかいプライベートバンキング部を新設
- ③ 岡三かんさい証券カンパニー
└ かんさいプライベートバンキング部を新設
- ④ 岡三にしにほん証券カンパニー
└ にしにほんプライベートバンキング部を新設



ソリューション営業による背景資産の掘り起し

- ✓ 岡三BANK（2024年9月開始）と岡三UBSファンドラップ（同年10月開始）が富裕層～ミドル法人のコア資産の取り込みを強力にサポート
- ✓ 今後もソリューションメニューの拡充を進めるほか、人員増強と共にサービスのクオリティ向上を目指す

<ソリューションメニュー>

本業サポート

- M&A（買い）
- リース
- 事業保険

不動産活用

- 不動産小口化
- 収益物件
- 海外不動産

オーナー＆ ファミリー

- 相続対策
- 資産管理

事業承継

- M&A（売り）

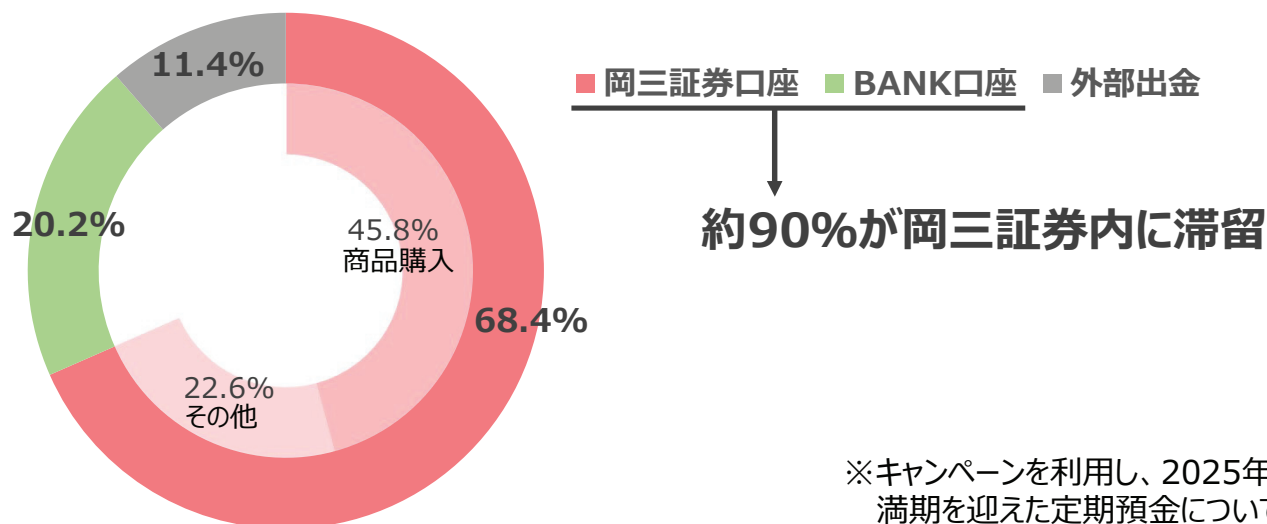
新たなソリューション

- 岡三BANK
- 岡三UBS
ファンドラップ

岡三BANK（2024年9月にサービス開始）

- ✓ 資金導入が進捗。背景資産へのアクセス、資産流出防止に寄与
- ✓ 対象商品（ラップ・投信）購入で同額まで特別金利定期預金枠を付与するセットキャンペーンを実施中
 - ➡満期を迎えた定期預金の約90%が岡三証券内に滞留
（68.4%は証券口座へ振替、20.2%はBANK口座に滞留）

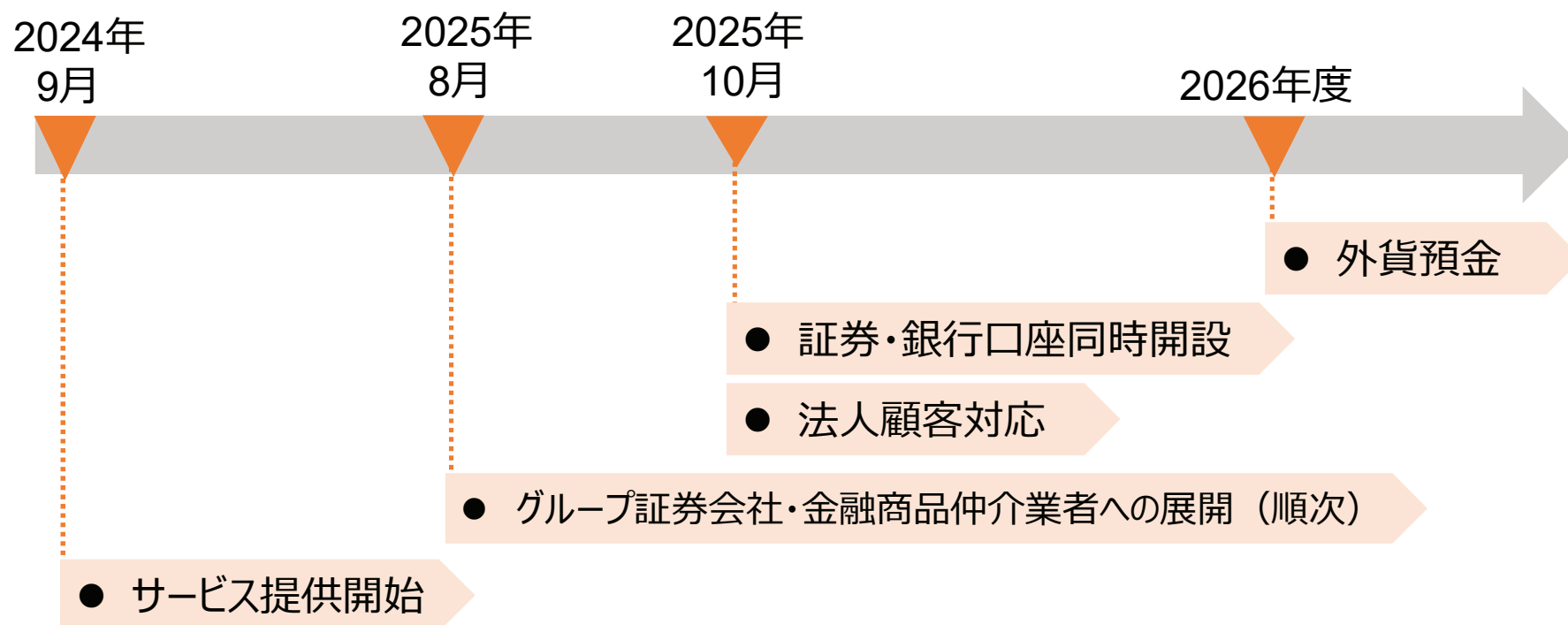
満期を迎えた定期預金の「振替先」



※キャンペーンを利用し、2025年2～3月に満期を迎えた定期預金について分析。

岡三BANKの機能拡充予定

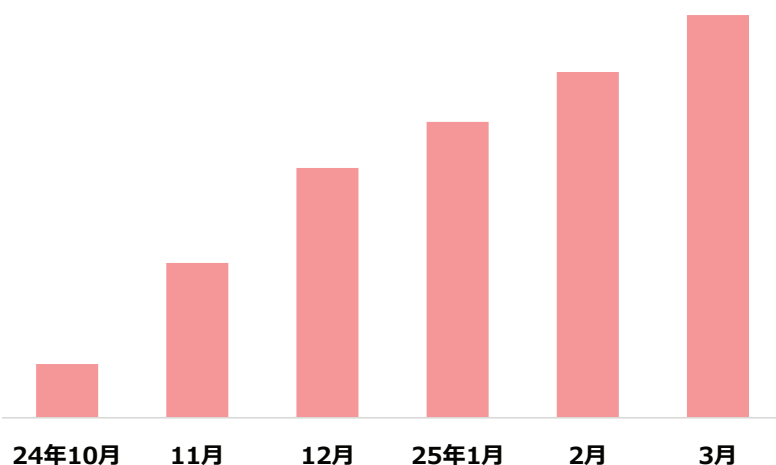
今後は各種機能とサービス内容を一層強化し、
「コア資産」の取り込みを推進する



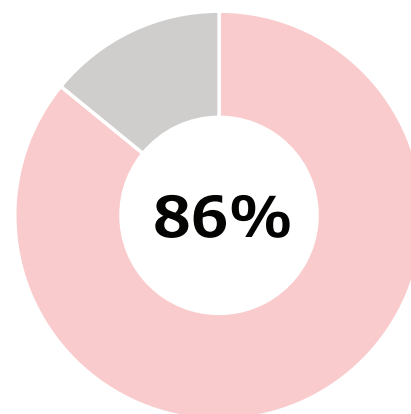
岡三UBSファンドラップ（2024年10月にサービス開始）

- ✓ お客様のニーズが強く、契約資産残高は順調に増加
- ✓ 新規資金による契約は全体の86%と、背景資産の取り込みをサポート
- ✓ 岡三BANKとのセットキャンペーン（ラップ・投信購入で同額の特別金利枠付与）を実施
➡全体の44%は同キャンペーンを利用

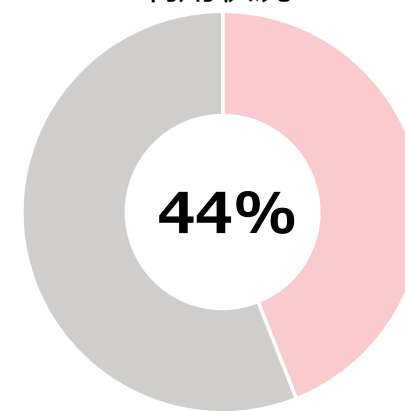
ファンドラップの資産残高推移



新規資金による買付比率



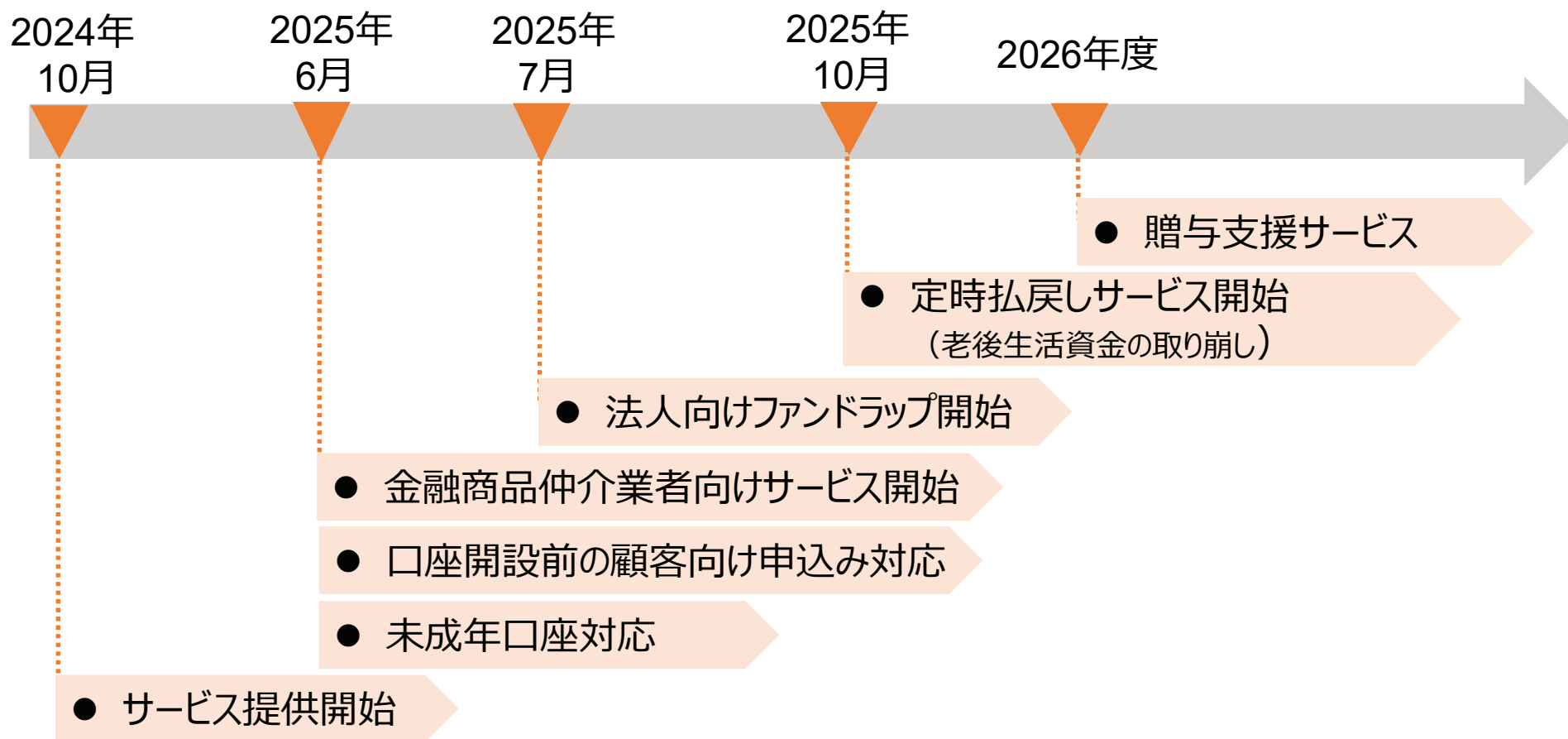
岡三BANKセットプランの利用状況



※2024年10月～2025年3月取引分

岡三UBSファンドラップのサービス拡充予定

サービスの拡充を進め、安定収益の拡大ペースを加速させる



03

成長戦略（2） プラットフォーム戦略

プラットフォームの高度化 (※中期経営計画より再掲)

証券ビジネス機能を強化し、グループ内外に対して「証券 as a Service」の展開を加速

お客さま



アライアンスやM&A等の推進により、多様な営業チャンネルに証券サービスを提供

岡三証券（対面、オンライン）

グループ証券

友好証券

IFA

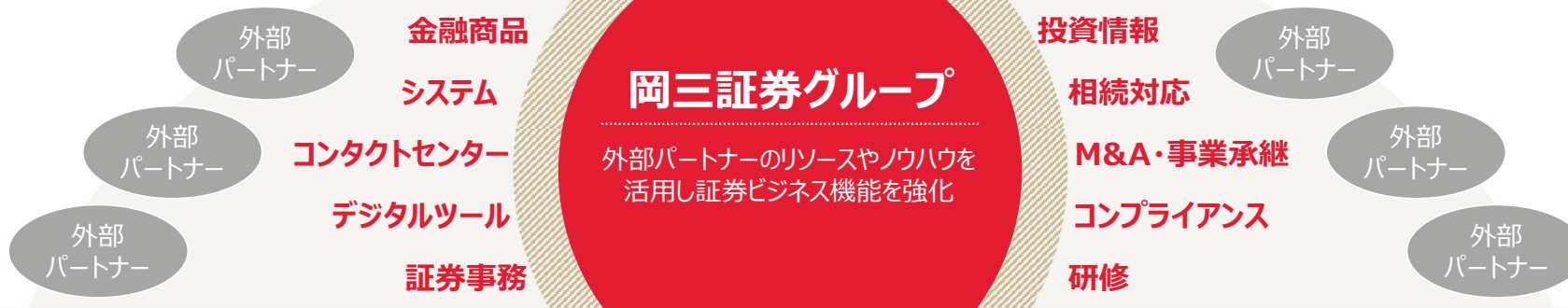
全国の地域金融機関

「量（営業チャンネル）の強化」

多様な営業チャンネルで
より多くのお客さまへサービスを提供

「質（証券ビジネス機能）の強化」

自前主義にこだわらず
他社リソースを効果的に活用



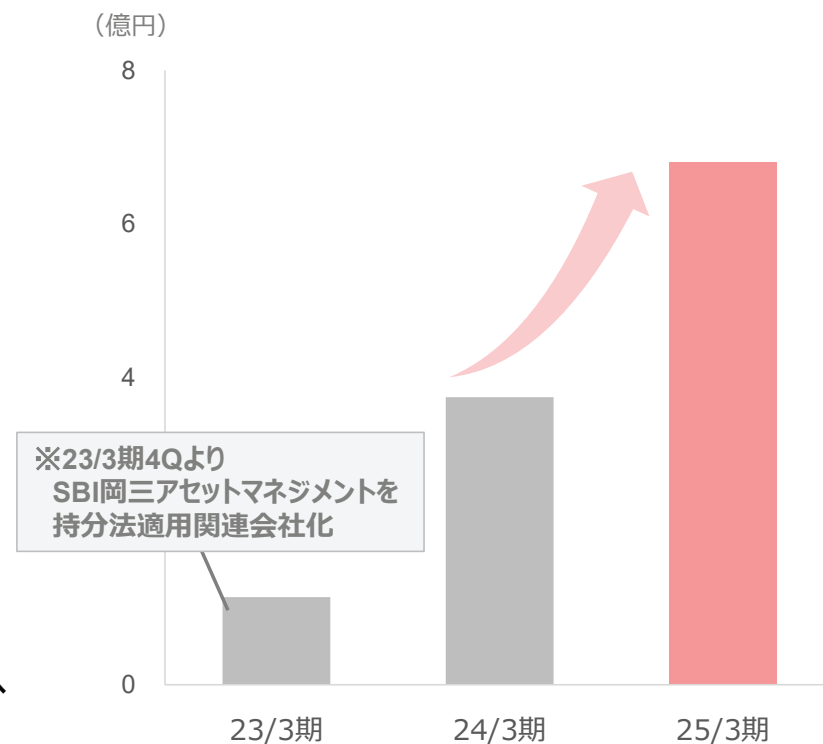
「オープンアーキテクチャ」により進むプラットフォームの高度化

**業態を超えたオープンアーキテクチャによるサービス導入を進め、
プラットフォームとしての存在感を高める**

外部リソースの積極的な活用

- 基幹システムを共同利用型に移行
- 富裕層の資産運用に精通したUBSグループの知見を活用した岡三UBSファンドラップを導入
- BaaSを活用した銀行サービス「岡三BANK」を開始
- 旧岡三AMの合併化によりSBIグループの販売網を活用
- 社内版ビズリーチ「HRMOS」導入で社内転職を活発化へ

持分法による投資利益推移



「岡三アプリ（仮称）」の構築へ

- ✓ 各種サービスを統合的にDX化し、顧客接点の高度化を図る
- ✓ 年内の段階的なリリースを目指し、プロジェクトを推進中
- ✓ プラットフォーム利用企業への提供も目指す



※岡三アプリのイメージ図

[主な機能（イメージ）]

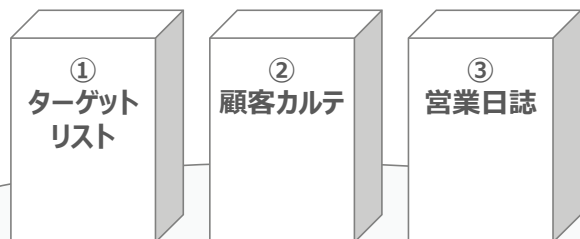
- 資産状況表示
- 取引機能、投資情報
- 書面交付機能
- 営業関連のフォロー機能
- コミュニケーション機能
- 家族情報、家族口座連携機能
- アカウントアグリゲーション など

岡三NBA Plus+（独自開発の顧客管理システム）

- ✓ 独自開発の顧客管理システム「岡三NBA Plus+（okasan Next Best Action plus）」を2025年4月にリリース（旧来の「岡三NBA」の発展版）
- ✓ 営業社員の生産性向上・事務負担軽減へ
- ✓ お客さま情報を蓄積・プロファイリングし、一人ひとりに最善のサービスを提供する

岡三NBA Plus+

okasan Next Best Action plus



岡三データプラットフォーム

【 三大機能 】

①ターゲットリスト

-毎朝、メール送付される顧客別のTo-Doリストにより、対応の漏れを防ぐ

②顧客カルテ

-顧客情報のすべてを蓄積

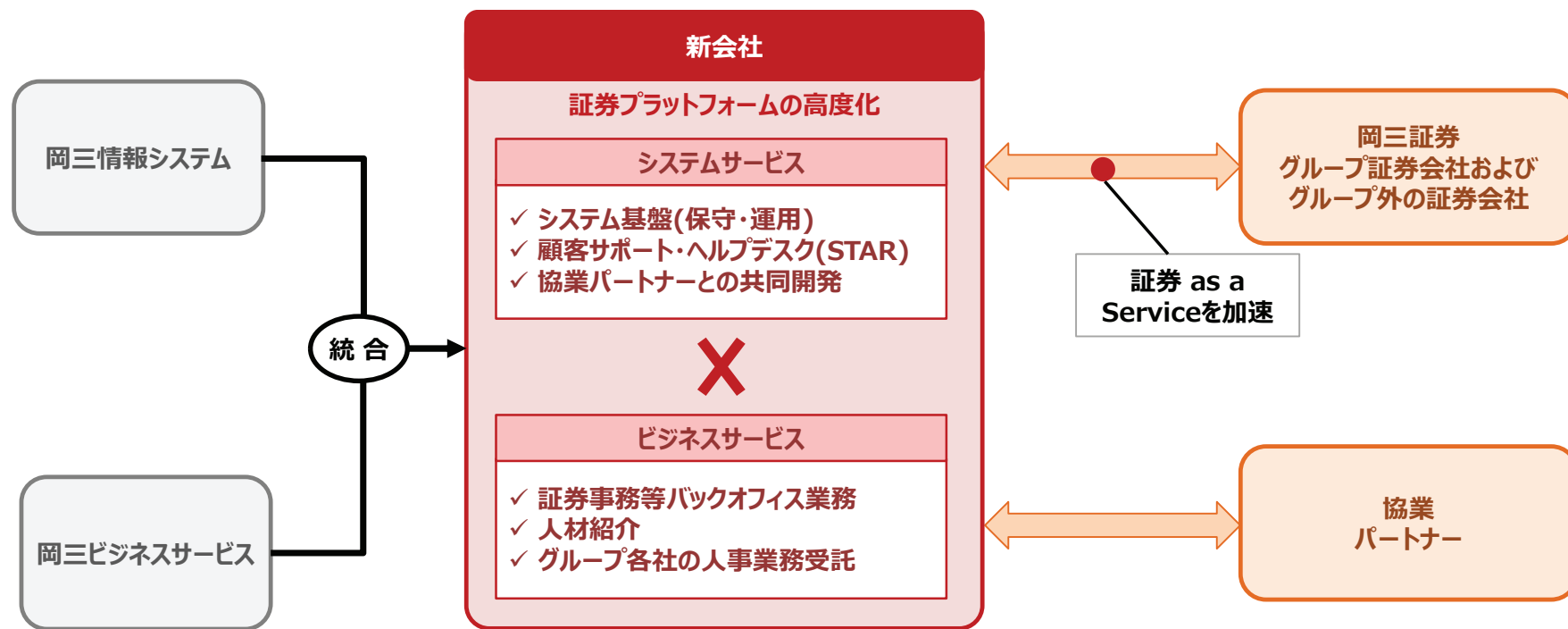
-AIサポート機能を導入予定（例：通話からお客さま情報をプロファイル）

③営業日誌

-日誌入力を「簡単に」、「漏れなく」。定型ワードをクリックするマウス操作だけで簡単に済み、コンプライアンス上、欠かせない項目の記録漏れも防ぐ

統合新会社「岡三ビジネス＆テクノロジー株式会社」

- ✓ グループ内外の証券会社に対するシステム開発と運用を担っていた岡三情報システムと、証券バックオフィス業務の受託や人材派遣等を展開していた岡三ビジネスサービスが、2025年4月に経営統合
- ✓ 証券ビジネスに関わる様々な機能を強化し、グループ内外の企業へサービスを展開



証券プラットフォーム事業～業界トップの転換実績～

- ✓ 幅広い商品・ソリューションサービスを取り揃える岡三証券を軸とする証券プラットフォーム事業が2024年9月にスタート
- ✓ 当社グループの一部証券会社においても金融商品仲介業者への転換を推進

証券プラットフォーム事業の実績

【岡三証券】	2024年	相生証券	→	あいおい証券ウェルスマネジメント
	2025年	三晃証券（分社化）	→	三晃証券ウェルスマネジメント
	2025年	三縁証券	→	三縁証券ウェルスマネジメント
【証券ジャパン】	2013年	大徳証券	→	だいたく投資ビレッジ
	2018年	飯塚中川証券	→	なかがわ証券アドバイザー
	2019年	竹松証券	→	竹松投資アドバイザー
	2021年	都証券	→	だいたく投資ビレッジ
	2023年	新林証券	→	新林投資アドバイザー
	2024年	頭川証券	→	ずかわ証券ウェルスマネジメント

国内史上最大の業態転換を実施

- ✓ 2025年5月12日に子会社の三縁証券ウェルスマネジメントが金融商品仲介業者に業態転換証券会社の金融商品仲介業者への転換としては国内史上最大
- ✓ 三縁証券ウェルスマネジメントを証券プラットフォーム事業のロールモデルへ
- ✓ 岡三証券の「証券プラットフォーム」を利用するメリット（コスト効率や付加価値の創出力向上など）を当社自らが示すことで当該事業の更なる拡大を図る



三縁証券



三縁証券
ウェルスマネジメント

【 旧三縁証券について 】

創業 : 大正12年（1923年）

本店 : 愛知県

拠点数 : 12拠点（愛知 6 拠点、岐阜4拠点、
三重1拠点、広島1拠点）

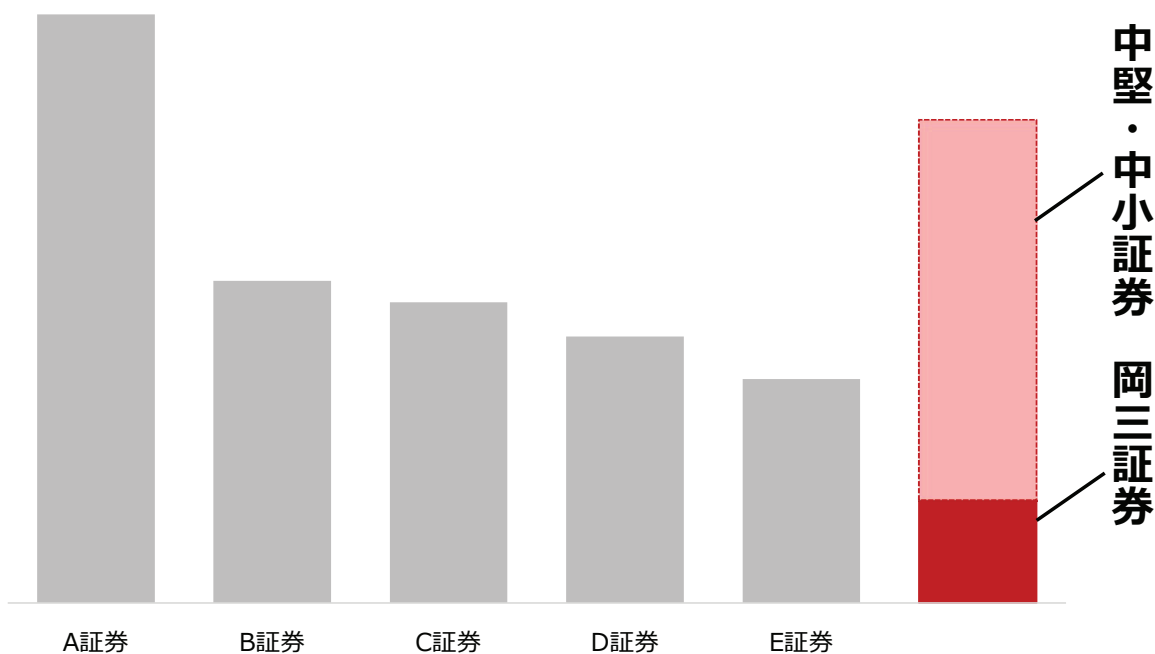
従業員 : 102名（2025年4月1日時点）

取引所参加資格 : 名古屋証券取引所

証券プラットフォーム事業のポテンシャル

中堅・中小証券とのネットワーク構築で大手証券に匹敵する規模感へ

＜大手証券のリテール事業における
純営業収益と比較＞

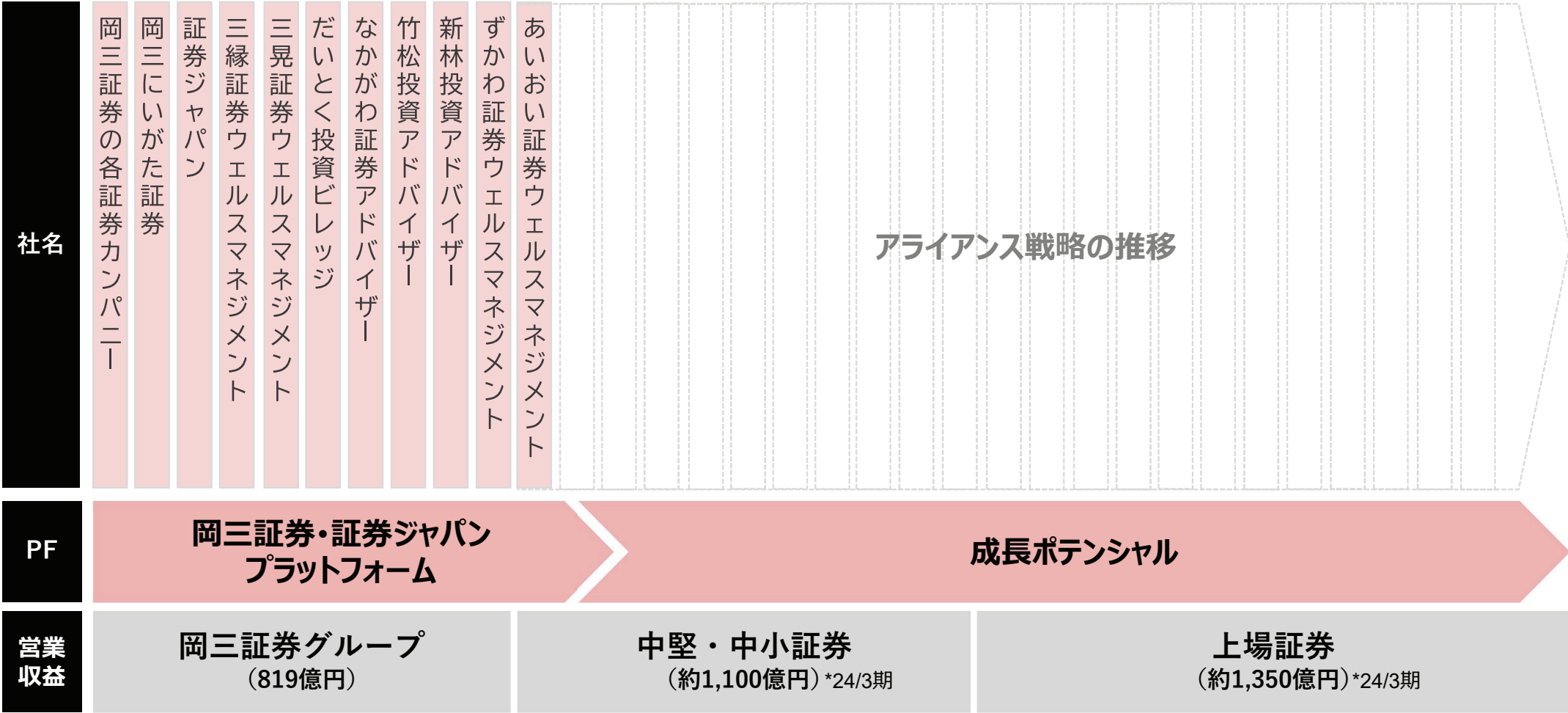


※24/3期のデータを基に作成

【証券業界の現況】

システム関連費用や、各種規制強化に伴う費用増加により、証券ビジネスに必要なプラットフォームコストは拡大傾向にある中、一部ネット証券による手数料ゼロ化など、難しい事業環境が継続。

<参考> 証券プラットフォーム事業のポテンシャル



プラットフォーム戦略の意義および今後の展開

＜プラットフォーム戦略の意義＞

証券業界の多様性を大切に活かし、より多くの「お客さまの人生」に貢献する

＜実績（25年5月時点）＞

- ✓ 岡三証券 グループ内外の証券会社を金融商品仲介業者へ転換支援（3社）
- ✓ 証券ジャパン 業界トップの取次数＋IFAネットワーク
証券会社から金融商品仲介業者への転換支援（6社）

＜構想＞

- ✓ グループ会社である三縁ウェルスマネジメントを証券アライアンス推進の成功モデルにする
- ✓ 岡三証券グループの独自ネットワークを活かした共存共栄により、
リテール金融ビジネスのポテンシャルを広く取り込んでいく

04

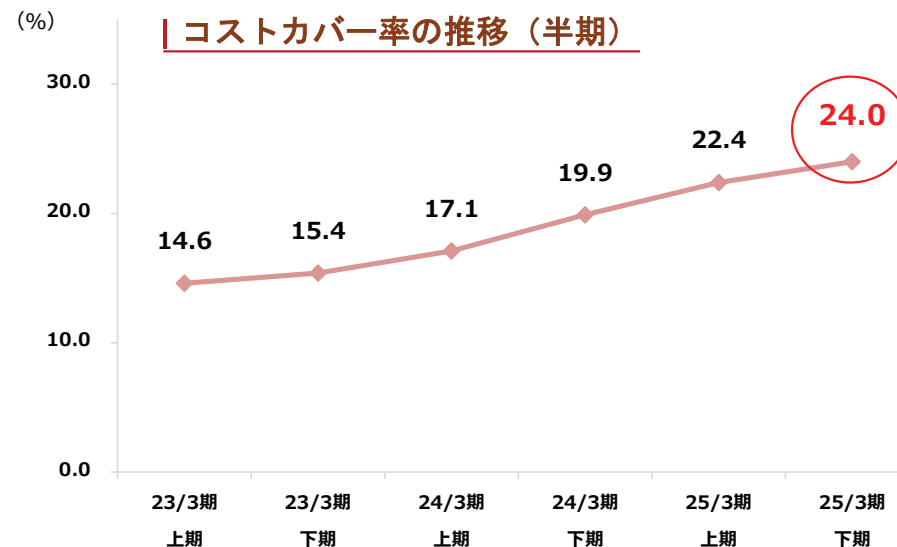
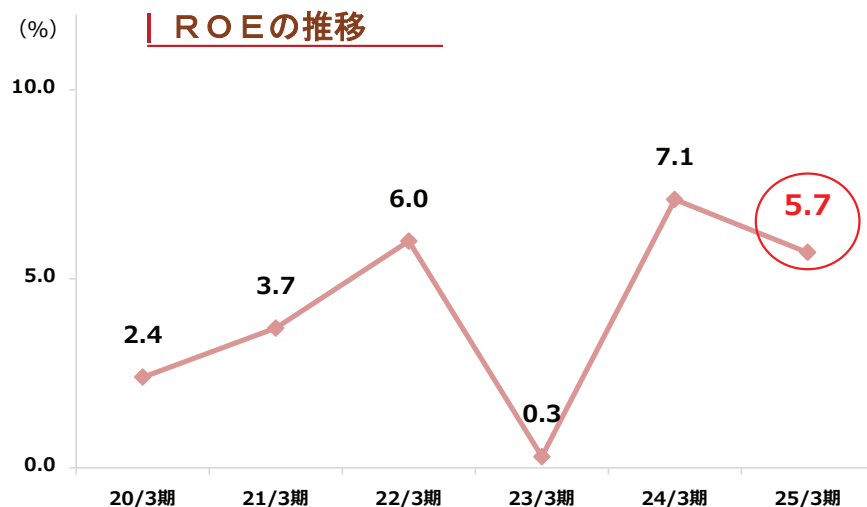
經營指標目標、株主還元等

経営指標目標 (1)

ステークホルダー	項 目	2028年3月期 達成目標	2023年3月末	→ 2025年3月末
お客さま	預り資産	10.0 兆円	6.9 兆円	→ 8.2 兆円
	投信預り資産	3.0 兆円	1.8 兆円	→ 2.0 兆円
	お客さま満足度*1	7.0 点	5.8 点 (2023年3月実施)	→ 6.4 点 (2025年3月実施)
社 員	社員エンゲージメント*1 項目「当社で働きたい」	スコアの 持続的な向上	—	→ 6.34 pt (2025年1月実施)※10pt満点中
	営業社員数*1	2,000 人	1,428 人	→ 1,523 人
ビジネス パートナー	岡三プラットフォーム (証券Plus+) 利用会社数*2	15 社	4 社	→ 7 社
株 主	ROE	8.0 %	0.3 %	→ 5.7 %
	総還元性向	50.0 %	29.5 %～1,248.0 % (2021年3月期～2023年3月期)	→ 62.9 % (予定)
	コストカバー率*3	30.0 %	15.0 %	→ 23.2 %

*1. 中核子会社である岡三証券単体の値。 *2. ビジネスパートナーに関する経営指標目標を2025年3月に変更。主なプラットフォーム利用会社の想定を、証券会社を母体とする大口IFA事業者に絞ったことによる。
(「証券Plus+」は当社グループが提供する証券プラットフォームの呼称。) *3. 岡三証券 リテールカンパニー統括部門における「ストック型収益÷販管費」の値。

経営指標目標 (2)



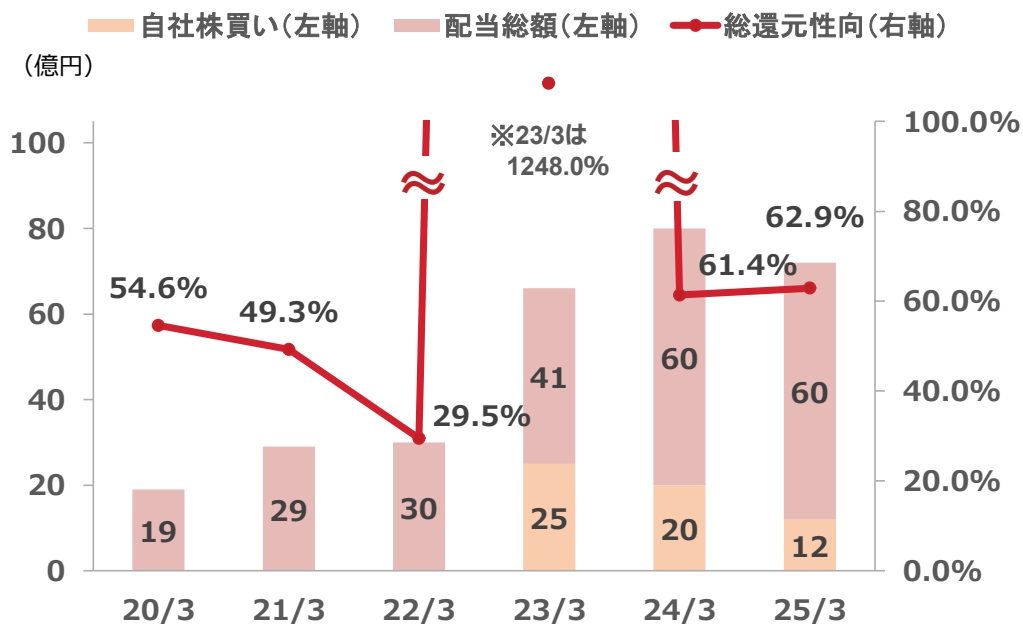
*岡三証券 リテールカンパニー統括部門における「ストック型収益÷販管費」の値

- ✓ コア資産へのアプローチによるビジネス機会、安定収益のさらなる拡大
- ✓ プラットフォーム戦略の推進によるリテール金融市場のポテンシャル取り込みへ

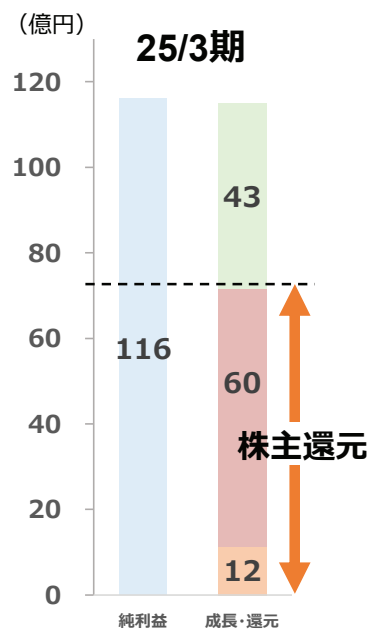
株主還元方針

- ✓ 安定的な配当の維持・継続を勘案しつつ、業績の進展に応じた配分
- ✓ 総還元性向50%以上。3年間で総額100億円以上の自己株式取得（2025年度～2027年度）
※PBR 1.0倍を超えるまで年間10億円以上の自己株式取得（2023年度～2024年度実施）
- ✓ 中長期投資の個人株主さま等を念頭に、株主優待等の新たな施策を検討へ

25/3期の総還元性向は62.9%（予定）



株主還元と成長投資



成長投資

- ・成長見込み先・提携先への出資
- ・M & A
- ・証券ビジネス機能拡充のための投資
- ・DX投資
- ・効率化投資

25/3期は72億円を還元予定

- ・配当総額60億円、
1株あたり配当金は最高水準の30円(予定)
- ・12億円の自社株買いを実施(24/7～24/9)

人材戦略強化

社員との長期的な関係構築に向けた取り組み

最新トピックス（メディア報道）

- テレビ東京WBS「雇用上限年齢を撤廃へ 岡三証券 70歳でも支店長に」（2024/10/29）
- 日経新聞「岡三証券、初任給を30万円へ上げ “20代支店長”可能に」（2024/10/29）



人事制度改革

- 2025年4月より新人事制度を導入
 - ・ 魅力的な報酬（市場価値を意識した報酬制度）
 - ・ 年齢にとらわれない処遇（20代・70代支店長も可能に）
 - ・ キャリアの見える化で人材マッチング（ビズリーチ社の人財活用システム「HRMOS」導入）

岡三証券グループのPurpose（存在意義） 「お客さまの人生に貢献する」

Purposeを実現するために必要な3つのValue（価値観）

矜持 金融のプロフェッショナルとして自らを誇れる働き方を実現
Uphold Integrity

情熱 夢を実現するために心に火をつける
Ignite Passion

共創 仲間と協力して新しい価値を生み出す
Forge Synergy

株式会社 岡三証券グループ

OKASAN SECURITIES GROUP INC.